

自然災害に対する給水能力を強化しました

- 北九州市上下水道局は、災害対応能力の強化を目的として道原浄水場に可搬式浄水装置を導入しました。
- 可搬式浄水装置は、被災地へ移設・運搬して、応急給水が可能です。
- 災害対応をより迅速に行うため、民間企業と災害応援協定を締結しました。

1 可搬式浄水装置とは

可搬式浄水装置は、浄水処理に必要な設備をコンパクトにしたもので、平成29年7月の九州北部豪雨で被災した朝倉市杷木浄水場の復旧にも活用された実績があります。

2 設備概要

名称 可搬式浄水装置
設置場所 道原浄水場 小倉南区大字道原
処理方式 砂ろ過
処理能力 38m³/h × 2基
(参考：約3,000世帯分の給水能力)



3 効果

(1) 道原浄水場のバックアップ

道原浄水場は山々に囲まれた自然豊かな場所にある浄水場です。道原浄水場において、豪雨や地震などの自然災害により被災した場合でも、可搬式浄水装置をバックアップとして備えることで、安全・安心な水の安定給水を行います。

(2) 被災地での活用

近年、各地で自然災害による断水被害が発生しています。市内及び近隣自治体において、災害等により浄水施設が使用不能に陥った場合、今回導入した可搬式浄水装置を移設・運搬して、応急給水を行うことが可能となります。

なお、災害対応を迅速に行うため、可搬式浄水装置の製造者であり、災害対応実績が豊富な日本原料(株)と令和2年2月13日に災害応援協定を締結しました。